

UIUC(University of Illinois Urbana-Champaign)での春学期が始まってから約2ヶ月が経過した。今月は月末に9日間の spring break があった。今回は主として今学期履修している科目の進行状況や spring break について報告する。

天候

月の初めは先月に引き続き気温が高く過ごしやすい環境であったので、春の訪れを予感した。しかし、中旬頃に気温が下がり、何日かは雪が降るくらいに冷え込んだ。Champaign に春が訪れるのはまだ先のようなのである。

講義

先に述べたように春学期の講義が開始してから約2ヶ月が経過した。どの科目も負担が大きくて毎日が大変である。特に先学期に比べると、essay の英作文の課題が非常に多く、これはこなすのに時間を要するので、ME393 のプロジェクト活動と相まって毎日が忙しい。

<ESL114>

最近は advertisement という題材で講義が進んでいる。次の essay の課題は cause and effect essay である。つまり、選んだテーマに関する事で、原因とその影響を論じなければならないのだが、テーマが advertisement に関係することに限られている。正直なところ広告、宣伝といったことに私は特別な興味は持っていないので、テーマを選ぶのに苦労した。出来ることなら、自分の興味のあるテーマを選べるような科目だったら良かったのにと思っている。今後大学の図書館で情報を探しながら essay を書くことになるが、この課題の締め切りの前後に、他の科目の中間試験や課題の締め切りがあるので、効率よく終わらせてしまいたいものである。

<TAM152>

今月は1回目の中間試験があった。一部難しい問題があったが、概ね解くことが出来たので良かった。次の中間試験もこの調子でいけるように頑張ろうと思う。しかし、一緒に講義を受けている友人から嬉しくない話を聞いた。この TAM152 という科目は TAM (Theoretical and Applied Mechanics) という学科の科目の一つであり、TAM152 とは別に TAM150 という科目がある。両者の内容は、初めは全く同じで講義も一緒に受けるが、TAM150 が総講義時間 30 時間で終るのに対して、TAM152 ではその後もさらに 13 時間より高度な内容を学ぶということであった。友人は TAM150 を履修しているのだが、彼が言うには、通常 ME (Mechanical Engineering) と IE (Industrial Engineering) の学生は TAM150 を履修するらしく、TAM152 の後半は難しい内容が多いということであった。後半は今以上にしっかり勉強する必要があるらしいのである。

<EALC150>

今月の初めにこの科目の中間試験があった。試験のタイプは選択式であった。文系の科目では試験として essay を書かせることも多いと聞いていたので、この点はありがたかった。しかし、選択式 50 問に対し試験時間が 50 分であったため、実質 1 問 1 分のペースで解かなければならなかった。しかも選択肢も五つと多めであったために予想よりも難しい試験であった。

今月も先月同様に mini-essay の課題が与えられた。前回は古代日本から西暦 1600 年までの間にテーマを設定したが、今回は江戸時代の間テーマを設定することになった。前回同様 ”yes, but...”形式であることを要求されたため、今回もテーマ選びに時間がかかってしまった。今回

は江戸時代の「土農工商」と呼ばれている身分制度をテーマとして選んだ。前回同様、自分が考えている論旨を英語であらわすのに苦労した。

来月の第2週には mini-essay とは違うタイプの課題の提出期限なのだが、まだその課題に関するアナウンスがない。教授は4月の初めまでには伝えるといていたが、内心もう少し早くから伝えて欲しいと思った。

<ME393>

今学期からの新しいメンバーと活動を始めた。若干私が足を引っ張っている感はあるが、今のところ特に大きな問題はなく、うまくいっていると思う。当初チーム内での自分の位置付けがはっきりしなかった上、先学期とは違いチームメンバーが多いので何か作業をしないとチーム内で村八分に会うのではないかという不安があった。そこで、Miller 教授に相談したところ、数学的などころを担当するようと言われた。今後行うタイヤ試験機から得られた生データがそのまま解析に使えるわけではないので、データから我々の欲しい数値を求める必要がある。データ換算式は去年の ME280 のメンバーが作成したレポートに載っていたのだが、私がそれを検証してみたところ、間違っていることが判明した。従ってそのためのデータ換算式を新たに作成する必要が生じ、当然だがそれが私の担当となった。他の作業としては、センサのセットアップやデータ収集装置の準備等もあるのだが、英語のマニュアルを読むのにも苦労する身としては、こういった理論作業を任される方がありがたい。しかし、もし間違った換算式を作ってしまうと、チームの取り組みの全てが無駄になりかねないので、責任は重大である。

ME393 での作業が先学期に比べて研究ということに近い内容になってきた。現在UIUCで取り組んでいるTire Testingの結果をベースにKITでの修士研究を進めることを検討している。KITにもフォーミュラプロジェクトという夢考房プロジェクトがあるので、このチームにとって有益な研究が出来ないものかと思っている。このことに関しては、今後の活動結果を考え、~~や~~指導教授である服部陽一教授ともの相談しながら決めていきたいと思う。

今月の末に 2004 年度の FSAE competition 用の新しいシャシが完成した。私は車両の製作には直接関わってはいないが、無事にシャシが完成したときは嬉しかった。今後はシャシのテストやドライバーの選定が行われる予定である。同時にボディカウルの作成も行われるが、こういったボディカウルを製作する上での大変さは夢考房で経験しているので、積極的に手伝っていきたい。

その他

2004 年度の FSAE competition が 2004 年 5 月 19 日（水）から 23 日（日）にかけて、Michigan 州で開催され、私の参加しているこの UIUC の FSAE チームも参戦するので、私も参加申し込みをした。採択されるかどうか分らないが行ければ良いなと思っている。

UIUC の図書館情報学部学部長の Unsworth 教授から自宅でのディナーへの招待を受けた。よく知らなかったのだが、教授は、昨年 KIT ライブラリーセンターの国際会議で講演したということである。その縁で私の事を知ったらしい。有り難くお受けすることにした。

さて 3 月 20 日（土）から 28 日（日）までは spring break だった。休みの前半は Champaign に残っていたが、週末は Chicago へ行った。これで 3 回目の Chicago 訪問になる。おそらく今回の訪問がこの留学での最後の機会であるため、今回は買い物をメインとした。

Champaign から Chicago まではバスで 3 時間以上かかるので、日帰りで行くのは少々難しい。今回は友人の好意で、その友人の自宅に泊めさせてもらった。また、Chicago で買い物する際に車も出してくれたので非常に助かった。この友人は日本生まれなのだが、幼少の頃からずっ

派遣留学報告書（3月分）

金沢工業大学大学院 機械工学専攻
竺 燿

とアメリカで生活していたらしい。彼も FSAE のメンバーなので、彼には公私ともに世話になっている。彼は夏休み期間中に KIT に留学すると言っていた。時期的に私が帰国した直後に来日することになるだろう。私の自宅に滞在して貰って、KIT と金沢をつぶさに見せたいと考えている。

UIUC での Spring semester も半分近くが過ぎた。忙しい日々が続いているが、一つ一つ確実に片付けていこうと思う。

以上